

秘

外交指導原理ノ確立及其實行具
體案ニ關スル參考資料第三輯附錄

日清戰爭ヨリ滿洲事變ニ至ル日本外交ノ
經濟的得失(未定稿)

昭和十一年十一月

外務省 調査部

一 現下日本ノ最大急務ハ我カ對外政策ノ根本的立直シニ在ルト考ヘ
ルカ、之カ爲ニハ先以テ帝國外交ノ根底ヲナス指導精神ヲ確立ス
ル必要カアル、之レ我々カ「日本主義ノ外交指導原理」ヲ研究シ
取纏メタ所以テアル

二 右指導原理ハ全然新タナル研究テアツテ甚タ未熟ナモノテアルカ
ラ理論ト實際ノ兩方面ヨリ更ニ深ク廣ク考察研究ヲ加ヘ完璧ヲ期
シ度イ意向テアル

三 我々ノ念願ハ固ヨリ單ナル學術的研究ニ在ルノテハ無イ、現實ニ
帝國外交ノ根本的立直シヲ期シテ居ルノテアルカラ、更ニ進ンテ
之カ實行具體案ヲ攻究セネハナラヌコトハ勿論テアル

四 以上ノ考量カラ我々ハ茲ニ外交指導原理ノ確立及之カ實行具體案
ニ關シテ參考トナルベキ各種ノ研究及資料ヲ順次集録スルコトニ
シタ

昭和十一年十一月

本稿ハ日本外交ノ基調ハ理想主義タルヘキカ利益主義タルヘキカラ
考察スル爲ノ参考資料トシテ作成セルモノデアアル。

例言

目次
例言

- 第一章 日清戦争以後ノ領土擴張政策ノ經濟的得失
- 第二章 滿洲事變ノ經濟的得失

第一日清戦争以後ノ領土擴張政策ノ經濟的得失

(一)

日清戦争以來ノ日本ノ領土の膨脹政策ハ日本ニ如何ナル經濟的利益ト損失ヲ與ヘタカ。此ノ問題ヲ明カニスル爲先ツ日清戦争以來ノ諸事件ノ犠牲ト之ニ依ツテ齎ラサレタ新領土ヲ列擧シヤウ。

(一)日清戦争ニ依ツテ日本ハ支那カラ臺灣ト澎湖島ヲ得、又償金二億兩ヲ得タ。ソシテ之ガ爲ニ九百七十七名ノ戦死者ト三千三百三十五名ノ戦傷者及ビ二億七千萬圓ノ戦費ヲ拂ツタ。

(二)日露戦争ニ於テハ戦費二十億圓ト戦死者五萬五千六百五十五人ト戦傷者十四萬四千三百五十二名ヲ出シタガ、其結果樺太ノ南半及ビ關東州ヲ得其間接ノ結果トシテ朝鮮ヲ併合スル様ニナツタ。

(三)西比利亞出兵ニハ四億九千萬圓ノ戦費ト一千五百四十人ノ戦死者及ビ二千六百七十一人ノ戦傷者ヲ出シタガ領土のニハ勿論經濟上ニモ何等ノ收穫モナカツタ。

(四)滿洲事件ニ依ツテ日本ハ事件費十億圓ト二千八百九十一人ノ戦死者及ビ六千六百九十四人ノ戦傷者(何レモ昭和十一年七月末現在)ヲ出シタガ之ニ依リ滿洲ニ於テ移民、投資、通商、原料ノ補給等ニ關シ事實上植民地ニ於ケルト同様ノ權利ヲ得タ(註)

(註)其他日本ハ北清事變ニ際シテ三百五十四人ノ戦死者及ビ八百十四人ノ戦傷者ヲ出シ、日獨戦争ニハ五百十四人ノ戦死者及ビ一千四百二十九人ノ戦傷者ヲ出シ、更ニ濟南事件ニハ五十四人ノ戦死者及ビ三百十四人ノ戦傷者ヲ出シ之ニ依リ經濟的利益ヲ得ル處ガアツタガ、左程重大ナモノデハナカツタカラ、之等ハ本稿中ノ計算カラハ除外スル

以上ノ三大事件ニ依ツテ日本ハ今日ノ領土的發展ヲ遂ケタノデアリ、(滿洲事件ハ事實上領土的發展ノ利益ヲ與ヘタルモノ)四十年ニ亘ル日本ノ發展政策ノ經濟的收穫ハ之等新領土ノ獲得ニアツタ様ニモ思ハレテキル。然シ一層良ク考ヘテ見ルトコノ三大事

件ノ收穫ヲ以テ領土的發展ソノモノニアルトスル考ハ理想主義ト
 經濟主義ヲ混合シタモノデアアル。經濟的見地カラ過去ノ外交ノ功
 罪ヲ檢討シヤウトスルニハ之等ノ新領土ガ如何ナル經濟的利益ヲ
 日本ニ與ヘタカラ調ヘネバナラナイ。之等新領土ノ獲得力單ニ日
 本人ノ國民的ナ誇リヲ満足セシメタ丈ケデ、經濟的ニハ日本ニ損
 失ヲ與ヘテキルナラバ、日本ハ物質的損失ヲシテキルモノト言ハ
 サルヲ得ナイ。

(二)

ソコデ之等ノ新領土ガ日本ニ與ヘタ經濟的利益ハ何カト言ヘバソ
 レハ主トシテ通商及投資上ノ利益デアアルカラ先ツ日本ガ新領土ハ
 朝鮮、臺灣、樺太、關東州及ビ澎湖島一カラ得タ通商上ノ利益ヲ
 計算シ次イデ投資上ノ利益ヲ計算シテ見ヤウ。

日清戰爭以後昭和九年迄四十二年間ニ於ケル日本ノ對新領土貿易
 總額ハ百五十五億圓デアツタ。(註)

(註) 日本ガ之等地域ヲ日本ノ領土トシナクテモ此貿易額ノ
 中幾分カハ當然日本トノ間ニ存シテキタモノデアアルカラ右
 貿易額ノ全部ヲ以テ日清、日露ノ兩戰役及滿洲事件ノ結果
 得ラレタモノデアアルトスルコトハ出來ナイ。ガ茲ニハ假ニ
 日本ガ新領土ニ對シ政治的支配權ヲ有シナカツタナラバ、
 該地域ニ對スル貿易ハ全然ナカツタモノト假定シテ計算ス
 ルコトトスル。

此百五十五億圓ノ對新領土貿易ニ依ツテ日本人ガ幾許ノ利益ヲ得タ
 カヲ考ヘテ見ルニ、英國ニ於テハ海外貿易ハ通常三分ノ利益ヲ擧ケ
 ルトサレテキルガ、假ニ一割ノ利益ヲ擧ケタトシテモ十五億五千萬
 圓ノ利益ヲ日本ニ齎ラシタニ過ギナイ。

次ニ投資上ノ利益ヲ計算シテ見ルニ、日清戰爭以後昭和九年迄四十
 二年間ニ内地カラ朝鮮、臺灣、樺太及關東州へ投資シテ得タ利益ハ
 最高五億圓ト推定シ得ル。
 斯クテ貿易上ノ利益ト投資上ノ利益ヲ合スルト日本ガ其領土擴張ニ

依テ得タ四十二年間ノ經濟的利益ハ最高二十億圓、五千萬圓デアアル。然ラバ日本ハ此二十億五千萬圓ノ利益ヲ舉ケル爲ニ幾許ノ犠牲ヲ拂ツタカ。

- (一) 日清戰爭戰費 二億七千萬圓
- (二) 日露戰爭戰費 二十億圓
- (三) 西比利亞出兵費 四億九千萬圓
- (四) 日清戰爭以後昭和九年迄ニ於ケル植民地ヘノ補助金 七億六千萬圓
- (五) 同期間ニ於ケル植民地維持ノ爲ノ陸海軍費 二十三億圓(註)

合計 五十八億二千萬圓
デアツテ、日露戰爭後日本ガ植民地ヲ獲得シ維持スル爲ニ支出シタ費用ハ合計五十八億圓ニ達スル。此五十八億圓ノ中ニハ日清、日露ノ兩戰役以下西比利亞出兵ニ至ル戰死者約六萬人及戰傷者十五萬人

ハ計算ニ入レテナイ。斯クテ過去ノ日本ノ外交ヲ經濟的見地カラ檢討シテ見ルト、實ニ五十八億圓ノ國幣ヲ捨テ、二十一萬ノ戰傷死者ヲ犠牲ニシテ二十億圓ヲ得タノデアリ、差引三十八億圓ノ純缺損ト二十一萬ノ戰傷死者ヲ出シテキルノデアアル。日本ノ領土的膨脹政策ハ經濟的ニハ全ク御話ニナラヌ損失ヲシテキル。而モ更ニ深ク考フヘキ事ハ、五十八億圓ノ費用ヲ支出シタ者ハ一般納稅者デアリ二十一萬ノ戰傷死者ヲ出シタノハ忠實ナル我カ國民デアリ、コノ莫大ナ犠牲ニ依ツテ二十億圓ノ利潤ヲ得タノハ植民地貿易及ビ投資ニ關係スル少數ノ商工業者デアツタコトデアアル。

(三)
(一) 日本ノ膨脹政策ノ齎ラシタ經濟的利益ハ單ニ通商及ビ投資上ノ利益ノミデアハナイ、内地人口ノ新領土移住ニ依ツテ内地人口ノ壓迫ガ緩和サレタ利益ヲ舉ゲネバナラヌト言フ者ガアルカモ知レナイ。蓋シ一般ニ日本ノ膨脹政策ハ其人口問題ヲ解決スル爲ノモノデア

ルトスル議論ガ有力ダカラデアアル。
 仍テ新領土及ビ滿洲ヘノ移住ニ依ツテ日本人人口ノ壓迫ガドレ丈
 ケ緩和サレタカラ見ルコトトシヤウ。
 (二) 昭和九年朝鮮、臺灣、樺太ニ於ケル内地人現在者數ハ左ノ如クデア
 アル。

朝鮮	五四萬人
臺灣	二五萬人
樺太	二九萬人
計	一一一萬人

朝鮮併合以來昭和九年迄ニ日本内地ノ人口ハ二千萬人増加シタル
 ニ對シ前述新領土ハ僅カニ其二十分ノ一ヲ吸收シタニ過ギナイ。
 最近ノ傾向(註)ヲ見テモ内地ヨリ新領土ヘノ移住人口ハ内地増
 加人口ノ二。五%ニ過ギナイノデアアル。
 スクテ日本ノ膨脹政策ハ移民ニ關スル限り殆ンド日本ノ人口問題

解決ニ寄與シテキナイト言フ結論ニ到達スル。

(註) 即チ大正十四年カラ昭和八年迄ノ八年間ニ内地人口ハ
 七百六十萬増加シタルニ對シ、之等新領土ニ於ケル内
 地人數ハ二十九萬ノ増加ヲ示シタノデアアルガ、此中十
 萬人ハ新領土ニ於ケル内地人ノ出生ニ依ル増加(死亡
 者ニ對スル出生者ノ超過數)デアアルカラ、此八年間ニ
 於ケル新領土ヘノ移住者數ハ正味十九萬デアツテ内地
 増加人口ノ二。五%ニ過ギナイノデアアル。

之ヲ要スル^(四)日本ノ外交特ニ日清戰爭以來ノ領土的膨脹政策ノ成果
 ヲ經濟的見地カラ検討シテ見タ處ヲ要約スルト、日本ハ五十八億三
 千萬圓ト云フ莫大ナ經費ト二十一萬人ニ達スル戰傷死者ヲ犠牲ニシ
 テ、僅カ二十億圓ノ通商及ビ投資上ノ利益ト内地増加人口ノ四十分
 ノ一ヲ吸收シタニ過ギナイ。斯クテ日本ノ外交ハ經濟的見地カラハ
 全ク御話ニナラヌ損ヲシテキル。

第二、滿洲事變ノ經濟的得失

(一)

次ニ滿洲事變ノ意義ヲ考ヘテ見ヤウ。同事變ハ日本ノ權益擁護ノ爲ノ自衛手段トシテ起サレタモノデアルト一般ニ考ヘラレテ居リ、而モ日露戰爭ニ於ケル日本ノ莫大ナ犠牲ト比較スレバ遙カニ僅少ナ犠牲ヲ以テ滿洲全土ニ亘リ日本ノ支配權ヲ事實上確立シタノデアルカラ、非常ナ成功デアツタ様ニ思ハレテキル。同事件ニ依リ日本ハ滿洲ニ於ケル市場及原料資源ヲ確保シタノデアルカラ今後日本ノナスベキ事ハ此滿洲ノ市場ト資源トヲ如何ニ有利ニ利用シテ日本ノ國家的利益ヲ擧ゲルカニ存スルヤウニ思ハレテキル。此考ハ、對滿政策ノ基調ガ經濟的物質的の利益ノ追求ニアルトスルモノデアルガ、此考ニ從テ滿洲事變ノ功罪、即チ滿洲事變ハ果シテ日本ニ物質的の利益ヲ齎ラシタカ否カラ調ベテ見ヤウ。(註)

(註) 滿洲事件ハ日本ノ外交史上ノ重大事件デアツテ日本ノ

年 度	輸 出	輸 入
昭和三年	147,000,000 圓	111,000,000 圓

日本ノ對滿洲及關東州ヘノ輸出入額

日本ハ滿洲事變ニ依リ如何ナル經濟的の利益ヲ得タカ。經濟的の利益ノ中主ナルモノハ何ト言ツテモ對滿通商ニ依ル利益デアル。デハ事變後日本ノ對滿貿易ハ如何ニ増加シタカ。事變前ノ四年間ト事變後ノ四年間ニ於ケル日本ノ對滿輸出ヲ比較スルト左ノ如ク異常ナル増加ヲ示シテキル。

(二)

外交ヲシテ功利主義カラ思想主義ニ一轉セシムベキ楔機ヲナスモノデアツタガ事實ハ之ニ反シ依然トシテ利益追求主義ヲ以テ對滿政策ノ基調トスルノ風ガアリ、之ヲ是正スルコトハ日本ノ外交ヲ刷新スル上ニ不可缺ナ要件デアル。

昭 和 四 年	同 五 年	同 六 年	事 變 前 四 年 合 計	同 七 年	同 八 年	同 九 年	同 十 年	事 變 後 四 年 合 計	事 變 後 ノ 増 加 比 較	事 變 前 ノ 増 加 比 較
一 八 八 〇 〇 〇 〇	一 一 一 〇 〇 〇 〇	七 六 〇 〇 〇 〇 〇	四 六 六 〇 〇 〇 〇	一 四 五 〇 〇 〇 〇	三 〇 五 〇 〇 〇 〇	四 〇 四 〇 〇 〇 〇	四 二 六 〇 〇 〇 〇	一 二 七 八 〇 〇 〇 〇	増 加 後 ノ 比 較	増 加 前 ノ 比 較
二 一 六 〇 〇 〇 〇	一 六 六 〇 〇 〇 〇	一 三 一 〇 〇 〇 〇	七 二 四 〇 〇 〇 〇	一 二 八 〇 〇 〇 〇	一 六 七 〇 〇 〇 〇	一 九 一 〇 〇 〇 〇	二 一 六 〇 〇 〇 〇	七 〇 七 〇 〇 〇 〇	減 少 後 ノ 比 較	減 少 前 ノ 比 較

先ツ輸出ヲ見ルニ、對滿輸出ハ事變後ノ四年間ニハ事變前ノ四年間ニ比シテ約八億圓ヲ増加シテキル。之ハ異常ナ増加テアリ、一見滿洲事件ノ異常ナ成功ヲ示スモノト思ハレテキルガ、必スシモ日本人ハ僅カー、二年ノ事件ニ依ツテ滿洲人ノ購買力が増シタ爲ニ生シタモノデハナク、實ハ日本内地カラノ對滿新投資ニ依ツテ増加シタモノデアアル。換言スレバ、日本ノ對滿輸出ノ増加ハ、日本カラ送ツタ金ヲ日本品ヲ購入シタ結果生シタモノテアツテ、右輸出代金ハ昭和七―十年ノ四年間ニ於ケル日本ノ對滿新投資九億圓ノ中カラ支拂ハレテキルト言フコトガ出來ルノデアアル。(同時ニ新投資ガ途絶エルト對滿輸出モ減退セサルヲ得ナクナル譯デアアル)カク觀察スレバ滿洲事件ニ依ル十億ノ經費ト一萬ノ戰傷死者ハ通商の利益ト言フ點カラ見レハ殆ント無駄ナ犠牲デアツタト言フコトニナルデアラウ。

(註)

更ニ又對滿輸出ノ増加ヲ謳歌スル前ニ吾々ハ滿洲事件ニ依ル對支輸出ノ減少ヲ考慮ニ入レネバナラナイ。日本ノ對滿輸出ハ前述ノ如ク事變前ノ四年間ニ比シ事變後ノ四年間ニハ八億圓増加シタノデアアルガ、同期間ニ於ケル日本ノ對支輸出ハ支那ノ排日ボイコット等ニ依リ五億八千萬圓減少シ、對滿輸出ノ増加ハ對支輸出ノ減少ニ依ツテ可ナリ相殺サレテキルノデアアル。(差引對滿輸出ノ増加ハ約二億二千萬圓ニナル)

以上輸出ニ關シテ述ヘタ所ヲ要約スルト、結局日本ハ滿洲事件費十億圓及ヒ對滿新投資九億圓、計十九億圓ノ費用ト一萬ノ戰傷死者ヲ犠牲ニシテ、事變後四年間ニ年平均五千五百萬圓宛ノ輸出増加ヲ見タノデアリ、假ニ輸出貿易ニ依ツテ一割ノ利益カ擧ケラレテキルモノトスレハ結局日本ハ前述ノ犠牲ニ依ツテ年五百五十萬圓ノ貿易上ノ利益ヲ得テキル次第デアアル。

13

然シ滿洲事變ノ齎ラシタ經濟的の利益ハ輸出貿易ノミデハナイ、滿洲

14

ノ資源ヲ確保スルコトガ出來タコトモ擧ケネバナラナイ。事變後滿洲國ハ日本ニ對シ鐵石炭等重要ナル原料ノ供給地トナツタモノノ様ニ思フ者ガアルカモ知レナイガ、實ハ事變後ノ四年間(昭和七―十年)ニ於ケル滿洲ヨリノ輸入ハ事變前(昭和二―五年)ニ比シテ七億四千萬圓カラ七億圓ニ減少シテキルノデアアル。

之ハ日本ニ於ケル鐵、石炭、人造肥料等ノ生産業者ガ折角國民ノ血ヲ流シテ獲得シタル安價ナル滿洲品ノ輸入ヲ阻止シテキル結果デアアルガ、兎モ角滿洲ヨリノ輸入ガ事變前ニ比シ却テ減少シテキル事實ヨリシテ資源確保ト言フ理由ニ依ツテ滿洲事件ヲ正當化スルコトハ出來ナイ。而モ之等ノ原料ハ代金サヘ拂ヘバ何處カラデモ平和的ニ喜ンデ供給シテクレルモノデアアルカラ國防其他ノ事サヘ考ヘナケレバ之カ爲ニ十億ノ戰費ト一萬人ノ戰傷死者ヲ出ス必要ハ認メラレナイノデアアル。

最後ニ滿洲事變ニ依ル經濟上ノ利益トシテ事變後ニ於ケル日本ノ對

滿新投資ヲ數ヘテ見ルコトトシヤウ。昭和七―十一年迄ノ五年間ニ於ケル日本ノ對滿新投資ハ十一億二千四百萬圓デアアルガ信賴スベキ統計ニ依レバ此新投資カラ大體年約四千萬圓宛ノ金ガ日本人ニ拂ハレテキル。(註一) (註二)

(註) 然シ茲ニ考ヘテ見ネバナラヌノハ、元來資金ナルモノハ、滿洲ニ投資セス其國內ニ於テモ又其ノ他ノ外國ニ於テモ、最低預金利率ノ程度ノ利潤ハ舉ケルモノト認メラレテキルノデアツテ茲ニ滿洲事變ニ依ツテ生セル利益トシテ舉クヘキハ、該事變ニ依リ右預金利率以上ニ有利ナ投資地ノ提供セラレタルコトヲ意味スルモノデアルカラ對滿新投資ニ依ル前記四千萬圓ノ收益ヨリ假ニ該新投資額ヲ内地ニ保留セル場合ノ最低收益三千三百萬圓(新投資額十一億圓ニ對スル定期預金利率三分三厘ノ利息)ヲ控除シタル七百萬圓ヲ以テ滿洲事變ニ依リ生セル投資上

ノ利益トスベキデアアル。

次ニ對滿移民ヲ調ヘテ見ヤウ。

(三)

日露戰爭ニ依リ日本ガ南滿洲ニ勢力ヲ扶植スル様ニナツタ當時ニハ滿洲ハ日本ノ人口問題解決ニ寄與スルデアラウト思ハレテキタ。然ルニ同戰爭中十九萬ノ戰傷死者ヲ犠牲ニシテ得タ關東州及滿洲ヘノ日本移民數ハ滿洲事件直前ニ於テ僅カニ二十四萬人デアツテ日露戰爭後三十年近クヲ經過シテ尙辛フシテ該戰爭ニ於ケル戰傷死者ノ數ニ匹適スル程度ノモノデアツタ。其後滿洲事件後ノ五年間ニ日本人ノ對滿移住ハ急速度ヲ以テ増加シタガ此五年間(昭和六一十年)ニ内地デハ四百八十萬ノ人口ガ増加シテ居リ、此期間内ニ於ケル對滿移民數ハ二十三萬人デアツテ内地増加人口ノ二十分ノ一ニ過ギナイ。滿洲ヘノ移民ニ依ツテ日本ノ人口問題ヲ解決スルトノ議論ハ有力デアルガ今日迄ノ成績ヲ見ルト之ハ絶對ニ望ミ難イ。(註)

17

(註) 昭和十年ニ於テ滿洲内地ハ七區ハ七萬人ニ達シタ

此對滿移住者ノ大部分ハ官吏、商工業者トシテ渡ツタ者デ彼地ノ土トナルベキ農業移民ノ數ハ豫想外ニ僅少ナルモノデアツタ。即チ對滿移民ト言ヘバ、農業移民ヲ主トスベキモノト思ハレルニモ拘ハラズ、關東州及滿洲ヘノ内地人移民四十七萬人ノ中農業移民ノ數ハ僅カニ四千四百人デアツテ總數ノ百分ノ一ヲ占ムルニ過ギナイ(昭和十年現在)然ルニ農民勞働者トシテ移住スルノデナケレバ在滿日本人ハ間モナク飽和状態ニ達スルデアラウカラ、今日ノ傾向ヲ維持スル限り、對滿移民ノ將來ニ關シテモ樂觀出來ナイ。

18

日本ノ勢力ノ滿洲進出ニ依ツテ事實上利益ヲ受ケタノハ日本人ヨリモ寧ロ支那人デアツタ。日露戰爭後ノ二十四年間ニ日本ヨリノ對滿移民數ハ前述ノ如ク二十四萬足ラズデアツタガ、支那東部ヨリノ移民ハ一千五百萬以上デアツタ。斯クテ人口問題ノ點カラ言ヘバ、日

19

本ノ滿洲進出ハ日本自身ノ爲ヨリモ寧ロ支那ノ爲ニナサレタトモ言フベキ結果ヲ見タノデアアル。

次ニ植民地及ビ滿洲國ヲ總括シテ、滿洲事變發生後ノ内地人口ノ増加數ト之等新地域ヘノ移住者數トヲ比較シ如何ニ膨脹政策ニ依ル人口問題解決ノ至難ナルカヲ調ベテ見ヤウ。

滿洲事件勃發當初、即チ昭和六年ニ於ケル内地人口ハ六千五百三十六萬人デアッタガ昭和十年ニハ六千九百二十五萬人トナリ、約三十八十九萬人ヲ増加シテキル。此内地人口三百八十九萬ノ増加ニ對シ新領土及滿洲國ヘノ移民ハ僅カニ三十一萬デアツテ、内地人口増加數ノ十分ノ一ニモ足リナイコトトナリ、此事實ヨリ見テ日本ノ發展膨脹ヲ人口問題解決ノ爲ト言フ理由ニ依ツテ肯定スルコトハ到底出來ナイ。(註)

(註) 此最近ニ於ケル人口増加ノ壓迫ガ滿洲事件其他日本ノ膨脹政策ニ基ク移民ニ依ツテドレ丈ケ緩和サレタカラ

20

假ニ日本ノ増加人口ノ半分ナリ共、植民地(又ハ類似ノモノ)ヘノ移住ニ依ツテ解決シヤウトスルニハ、日本ハ現有植民地及滿洲國ヲ

見

見ルト左ノ如クデアアル。

	昭和六年	昭和十年
朝鮮	五一萬人	五八萬人
臺灣	二四萬人	二七萬人
樺太	二八萬人	三一萬人
南洋	二萬人	五萬人
關東州及滿洲	二五萬人	五〇萬人
計	一三〇萬人	一七一萬人

此四年間ニ於ケル新領土及滿洲國ニ於ケル内地人數ノ増加ハ約四十一萬人デアアルガ、此中約十萬人ハ該新領土及ビ滿洲國ニ於ケル内地人ノ出生ニ依ル増加デアアルカラ、内地ヨリノ移住者ハ約三十一萬ニ過ギナイ。

(二) 假ニ戰傷死者ニ對スル恩給等ハ除外シテモ、十億圓ノ滿洲事件費ニ對シテハ日本政府ハ日本公債ノ利率年四分ノ利息ヲ拂ハネバナラヌ。即チ毎年四千萬圓ヲ負擔セネバナラヌ。

(三) 右以外日本政府ハ滿洲國ヲ維持シテ行ク經常費トシテ毎年約一億九千萬圓ノ滿洲事件費ヲ支出シテキル。

(註) 滿洲事變ノ利害ヲ事變後四年間ニ限定シテ考察スルノハ妥當デナイト言フ議論ハ尤モデアツテ同事變ノ眞ノ經濟的功罪ハ遠イ將來ニ於テデナケレバ論シ難イ。例ヘバ同事變ガ結局日蘇戰爭ヲ惹起シ又ハ日支戰爭ヲ誘發スル機縁トナリ、百億圓ノ損失ト多數ノ人命ヲ失フコトトナルカ又ハ金鑽等ノ發見ニ依ツテ幾年カノ間純利益ヲ擧ゲ得ルカハ將來ノコトニ屬シ何トモ斷定シ得ナイ。然シ、臺灣、樺太、朝鮮等ガ富源ハ左程豐デナイニシテモ面積ガ比較的小サク而モ統治極メテ容易デ

(一) 昭和六十年ニ滿洲事件費約十億圓ヲ支出シ三千人近イ戰死者ト六千六百人ノ戰傷者ヲ出シタ。

以上ニ依ツテ滿洲事變後四年間ノ經驗ニ依ツテ日本ガ毎年得ル利益ヲ總括スルト(一)内地人口約六萬人ヲ滿洲ニ移住セシメ(四年間ニ二十三萬人移住)(二)年平均五百五十萬圓ノ通商上ノ利益ヲ得又(三)年四千萬圓(此中滿洲事變ニ由來スル利益ハ七百萬圓)ノ投資上ノ利益ヲ得テキルノデアル。(註)

之方爲ニ日本ハドレ丈ケノ犠牲ヲ拂ヒ又拂ヒツツアルカ。

(四) 合シタル地域ノ幾倍ノ地域ヲ政治的ニ支配セネバナラナイト共ニ移民獎勵ニ關シテモ絶大ノ努力ヲ拂ハネバナラナイト言フ議論ニナル。斯クテ膨脹政策ニ依ツテ人口問題ヲ解決スル事ガ不可能デアルト共ニ人口問題解決ト言フ理由ヲ以テシテハ日本ノ發展政策ヲ肯定出來ナイノデアル。

23

之ヲ要スルニ日本ガ國ヲ焦土ト化スルモ尙止マストノ危険ヲ冒シ同胞一萬人ヲ犠牲ニシテ起シタ滿洲事變ノ經濟的利害ヲ總決算スルト少數ノ移民ヲ除外スレハ日本ハ毎年四千五百萬圓ノ利益ヲ得ツツアルニ對シ二億三千萬圓ノ損失ヲ重ネツツアルノデアツテ、差引一億九千萬圓ノ國家的純缺損ヲ續ケツツアルノデアアル。

(註) 純理上カラ言ヘバ眞ニ滿洲事變ニ由來スル利益ハ、前述ノ理由ニ依リ、投倉上ノ利益四千萬圓ノ中僅カニ七百萬圓デアアルカラ、該事變ニ依ル利益ハ年僅カニ一千

(五)

アルノニ比シテ滿洲國ハ富源ハ相當大デアアルガ面積ガ尤大デアリ而モ統治及防備共ニ極メテ困難ナル點ヲ考慮スルト、滿洲ガ果シテ前記ノ植民地以上遙カニ大キイ利潤率(或ハヨリ少キ缺損率)ヲ擧ゲ得ルカハ疑問デアアル。

24

事件デアツタノデアアル。

二百萬圓ニ過ギヌト言フノヲ至當トスル次第デ、之ガ十億ノ事件費ト年二億ノ政府支出ノ擧ゲツツアル純益トスルト其利潤率ハ恐ラク千分ノ一ニモ足リナイ次第デ經濟的見地ヨリ見レバ、果シテ何ノ爲ニ滿洲事變ヲ起シタノカ一向分ラナイ次第デアアル。

而モ今後純缺損ガ續ケバ續ク程、滿洲國ニ關聯スル日本ノ國債ハ増加シテ行ク許リデアツテ、從テ滿洲ニ對スル純缺損モ累進的ニ増加シテ行ク譯デアアル。而モ此缺損ハ滿洲事件後月日ガ經ツニ從テ次第ニ減少シテ行クベキモノノ様ニ想像サレルカモ知レナイガ、事實ハ之ニ反シテ最近ニ至リ増加ノ傾向ヲ示シ居ルコトハ、滿洲事件費ガ昭和九年(一億五千萬圓)カラ十年(一億八千萬圓)ヲ經テ十一年(二億圓)ト増加ノ一路ヲ辿ツテ來テキル事ニ依ツテモ察知セラルルノデアアル。斯ク日本ニ取ツテ最少ノ犠牲ヲ以テ最大ノ利益ヲ擧ゲタカノ如ク思ハレテキル滿洲事件モ實ハ經濟的ニハ採算ノ取レナイ事件デアツタノデアアル。